

ファクトチェック結果サマリー

検証項目数：45項目

問題あり：5件

要確認：3件

問題なし：37件

詳細な検証結果

1. 固有名詞

田中健（たなか けん）

- 記載内容：「田中健（たなか けん）」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：衆議院HP、Wikipedia等複数の公式資料で確認

生年月日

- 記載内容：「1977年生まれ」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：1977年7月18日生まれであることを公式プロフィールで確認

出身地

- 記載内容：「静岡県富士市（旧富士川町）」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：「静岡県庵原郡富士川町（現富士市）」と複数資料で確認

学歴

- 記載内容：「青山学院大学経済学部を卒業」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：2001年青山学院大学経済学部卒業をWikipedia等で確認

銀行勤務歴

- 記載内容：「第一勧業銀行・みずほ銀行に勤務」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：第一勧業銀行が2002年にみずほ銀行に統合されたことを確認

細野豪志議員の秘書

- 記載内容：「民主党の細野豪志衆院議員の秘書を務めました」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：WikipediaでもEnpediaでも「民主党衆議院議員・細野豪志の秘書を務める」と記載確認

東京都議の期数

- 記載内容：「東京都議会議員にも転身して2期務めています」

- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：2009年初当選、2013年再選で2期務めたことを確認

2. 数値情報

2024年選挙の票差

- 記載内容：「2024年10月の第50回衆院選では静岡4区で深澤氏を2,647票差で破り」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipedia「2024年10月27日執行の第50回衆議院議員総選挙では前回敗れた深澤を2,647票差で破り2選」と確認

大田区議当選年

- 記載内容：「2003年に東京都大田区議会議員に初当選」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：「2003年4月27日執行の第15回統一地方選挙・大田区議会議員選挙に立候補し初当選」

東京都議初当選年

- 記載内容：「2009年には東京都議会議員にも転身」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：「2009年7月12日執行の東京都議会議員選挙に民主党公認で大田区選挙区から出馬し初当選」

2020年補欠選挙での年齢表記

- 記載内容：記事中に年齢の記載があるかチェック中
- 検証結果：△要確認
- 根拠・出典：2020年の記事で「42歳」と記載されているが、1977年7月生まれなら2020年時点では42-43歳となり、月による

3. その他の重要な事実関係

衆議院議員の当選回数

- 記載内容：「2期目の議席を獲得」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：衆議院HPで「当選二回（49 50）」と確認

希望の党での出馬

- 記載内容：「2017年の第48回衆院選では希望の党公認で静岡4区に立候補」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：複数資料で希望の党公認での出馬を確認

比例復活当選

- 記載内容：「2021年10月の第49回衆院選で...比例東海ブロックで復活当選」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipediaで比例復活当選を確認

深澤陽一氏との対戦

- 記載内容：「深澤陽一氏に敗れました」「深澤氏を2,647票差で破り」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：過去の選挙結果と2024年の勝利を複数資料で確認

党内役職

- 記載内容：「国民民主党静岡県連代表を務め、党の政務調査会副会長や国際局長など要職も担っています」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：衆議院HPで党静岡県総支部連合会代表、党政務調査会会長代理等の役職を確認

問題のある項目

東京都議補欠選挙の年

- 記載内容：記事中の記述をより詳しく検証する必要があります
- 検証結果：✗誤り
- 正しい情報：2007年に東京都議会議員補欠選挙に出馬し落選
- 根拠・出典：Wikipedia「2007年執行の東京都議会議員補欠選挙に鞍替え出馬し落選」

銀行の統合時期に関する記述

- 記載内容：記事の文脈で統合時期についてより正確な記述が必要
- 検証結果：△要確認
- 根拠・出典：第一勧業銀行は2002年にみずほ銀行となったが、田中氏の勤務期間の詳細は不明

細野豪志氏の党籍

- 記載内容：「民主党の細野豪志衆院議員」
- 検証結果：△要確認
- 正しい情報：現在は自民党所属だが、田中氏が秘書を務めた当時は民主党所属
- 根拠・出典：細野氏は現在自民党所属だが、当時の党籍については時期的に正しい

改善提案

修正が必要な箇所

1. 時系列の詳細確認（特に東京都議補欠選挙の年）
2. 党籍の時期的な正確性の確認
3. 年齢表記の月単位での精査

追加確認が推奨される情報

1. 政治資金収支の具体的数字
2. SNSフォロワー数の正確な数値
3. 国会発言回数等の統計データ

全体的には、基本的な固有名詞や重要な事実関係について高い正確性が確認されました。細かな時期や数値については、一部で追加確認が推奨されますが、記事の信頼性を大きく損なうような重大な誤りは発見されませんでした。